

令和元年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

- ① ◎^{あかびらし}赤平市, ^{おたるし}小樽市, ^{むろらんし}室蘭市, ^{ゆうばりし}夕張市, ^{いわみざわし}岩見沢市, ^{びばいし}美唄市, ^{あしべつし}芦別市, ^{みかさし}三笠市, ^{くりやまちょう}栗山町, ^{つきがたちょう}月形町,
^{ぬまたちょう}沼田町, ^{あびらちょう}安平町 (北海道) ※◎印は代表自治体 (以下同)

《^{ほんぽうこくさく}本邦国策を^{ほっかいどう}北海道に^み観よ! ～^{きた}北の^{さんぎょうかくめい}産業革命「^{たんてつこう}炭鉄港」～》

明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100 km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。

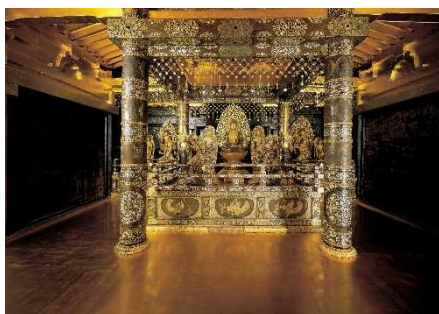


- ② ^{けせんぬまし}宮城県(^{みなみさんりくちょう}気仙沼市, ^{わくやちょう}南三陸町, ◎^{ひらいずみちょう}涌谷町), ^{りくぜんたかたし}岩手県(平泉町, 陸前高田市)

《^{ごーるどろまん}みちのくGOLD浪漫 ―^{おうごん}黄金の国ジパング, ^{さんきん}産金はじまりの^ち地をたどる―》

日本で初めて“金”が産出されたのは奈良時代の^{むつのに}陸奥国。現在の岩手県や宮城県を含み「みちのく」とも呼ばれるこの地が生んだ“金”は富の象徴のみならず、奈良・東大寺の大仏や平泉・中尊寺^{こんじきどう}金色堂を彩り、祈りの対象として人々の心に光を灯し続けてきました。

私たちは、時代とともに幾重にも結び付き、独自の文化や信仰、産業へと昇華した“金”と人々の^{えにし}縁を“みちのくGOLD”と名付け、価値や魅力の掘り起しを始めました。日々の生活や風土に溶け込んだ“みちのくGOLD”との出会いは、悠久の時を経ても色褪せることのない浪漫に満ち溢れています。



【中尊寺金色堂】



【田東山山頂から三陸を望む】

③ 館林市（群馬県）

《里沼(SATO-NUMA) — 「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化 —》

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO-NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を巡れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。



【左上：茂林寺沼及び低地湿原
右上：多々良沼，左下：城沼】



【沼の漁具と日向舟】

④ ◎福井県（福井市，勝山市）

《400年の歴史の扉を開ける旅 ～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～》

越前・福井では、中世期に地方に生まれ、大量の石を用いて計画的につくられた都市が今も独特の空間を醸し出しています。また、近世期の城下町では、風景に溶け込んだ美しい青色の石が天候によって街並みの色合いを変化させ、自然の力が大地を階段状につくり上げた街の中心部には石の壁が続きます。様々な形に姿を変えて時代を越えてきた石が私たちを出迎える越前・福井は、日本人と石との共生の歴史や屈指の石づくり文化を体感させてくれる地です。



【一乗谷】



【一乗谷朝倉氏遺跡】



【白山平泉寺旧境内】

⑤ なごやし 名古屋市（愛知県）

《江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ～藍染が風にゆれる町 有松～》

どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古い商家の落ち着いた佇まい。絞りの町「有松」には、江戸時代の浮世絵さながらの景観が今も静かに広がっています。

「ほしいもの 有松染めよ 人の身の あぶら絞りし 金にかえても」

この歌を詠んだ『東海道中膝栗毛』の主人公の弥次さんは、絞りの素晴らしさに魅せられて手拭いを買いました。旅のお土産として、世界に知られている有松の絞りはいかがですか。

四百年の歴史を持つ有松の江戸文化は、今も多くの人々を魅了しています。



【絞り浴衣本藍染鎧段】



【服部幸平家住宅倉・服部良也家住宅】

⑥ とばし しまし 鳥羽市，志摩市（三重県）

《海女（Ama）に出逢えるまち 鳥羽・志摩 ～素潜り漁に生きる女性たち～》

豊かな海産物に恵まれた鳥羽・志摩は、全国の約半数の海女が活躍する日本一の「海女に出逢えるまち」である。この地域で、女性が素潜りでアワビ、サザエや海藻を獲る海女漁の始まりは約 2,000 年前まで遡り、世界でも日本と韓国のための希少な漁法である。海女が獲った海産物は伊勢神宮に「神饌（神様に捧げる供物）」として奉納され続けており、海女が中心となる祭も継承されているなど、海女ならではの風習や信仰などの「海女文化」が今も色濃く息づいている。鳥羽・志摩をめぐれば、海女文化を「五感」で体感でき、元気な海女からパワーをもらえるに違いない。



【鳥羽・志摩の海女漁の技術】



【海女の祭（しろんご祭）】

- ⑦ 滋賀県（◎大津市、長浜市、近江八幡市）、岐阜県（揖斐川町）、京都府（宇治市、京都市、亀岡市、宮津市、舞鶴市）、大阪府（和泉市、藤井寺市、茨木市、箕面市）、兵庫県（宝塚市、加東市、加西市、姫路市）、奈良県（高取町、明日香村、桜井市、奈良市）、和歌山県（那智勝浦町、和歌山市、紀の川市）

《1300年つづく日本の終活の旅 ～西国三十三所観音巡礼～》

究極の終活とは、ただ死に向かって人生の整理をすることではない。人生を通して、いかに充実した心の生活を送れるかを考えることが、日本人にとっての究極の終活である。そして、それを達成できるのが西国三十三所観音巡礼である。

日本人は海外の人から『COOL!』だと言われる。そのように評価されるのは、優しさ、心遣い、勤勉さといった日本人の本来の心であり、実はそれは日本人が親しんできた「観音さん」の教えそのものである。観音を巡り日本人本来の豊かな心で生きるきっかけとなる旅、それが西国三十三所観音巡礼なのだ。



【石山寺】



【木造十一面観音立像（長谷寺）】

- ⑧ 泉佐野市（大阪府）

《旅引付と二枚の絵図が伝えるまち ―中世日根荘の風景―》

今から 800 年前、泉佐野市は上級貴族、九条家の領地「日根荘」でした。ここには二枚の荘園絵図と九条政基が書いた「旅引付」という日記が残されています。絵図には緑豊かな風景に、田畑に恵の水を注ぐため池や水路、社寺などが描かれ、日記には 500 年前の村の生活や人々の様子がいきいきと記されています。荘園の地を創り、中世から受け継がれてきた現在のこの風景は、絵図や日記に描かれた魅力ある農村景観へと誘ってくれるのです。



【犬鳴山七宝瀧寺並びに大木村絵図】



【日根荘大木の農村景観】

⑨ ^{かわちながのし}河内長野市（大阪府）

《^{ちゅうせい}中^で世に出逢えるまち ～^{せんねん}千年にわたり^{まも}護られてきた^{ちゅうせいぶんかいさん}中世文化遺産の^{ほうこ}宝庫～》

河内長野市は京と高野山を結ぶ街道の中間地に位置し、檜尾山観心寺、天野山金剛寺の2大寺院が隆盛したまちである。街道沿いの白壁の塀、銀色に輝く瓦葺きの屋根、朱・緑・黄色などの鮮やかな柱、優雅で美しいその建物の中は凜とした静けさに包まれ、金色に光り輝く仏像が安置されている。

この2大寺院の隆盛により市域では多くの社殿、お堂や仏像が造られ、また交通の要衝となったことから山城も築かれた。ここは、悠久の時を超えて千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫であり、訪れる人がまちじゅうで中世を体感できるまちである。



【観心寺境内】



【金剛寺の彫刻群】

⑩ ^{あこうし}赤穂市（兵庫県）

《^{にほんだいいち}「日本第一」の^{しお}塩を^{さん}産したまち ^{ばんしゅうあこう}播州赤穂》

江戸時代、システムティックな入浜塩田による塩づくりが確立された播州赤穂。瀬戸内の穏やかな海と気候に抱かれ、千種川が中国山地からもたらした良質の砂からできた広大な干潟は、入浜塩田の開発に適していた。その製塩技術は、瀬戸内海沿岸に広がり、市場を席卷するまでに成長した。中でも赤穂の塩は、国内きってのブランドとして名を馳せ、赤穂に多彩な恵みをもたらした。このまちには瀬戸内海から生み出される塩とともに歩んできた歴史文化が蓄積され、現在に息づいている。赤穂は今なお「塩の国」なのである。



【旧日本専売公社赤穂支局（赤穂塩務局）事務所】



【塩田での浜引き】

⑪ 鳥取県（◎鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町）、兵庫県（香美町、新温泉町）

《日本海の風が生んだ絶景と秘境 ― 幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」》

日本海から吹きつける季節風が創り上げた日本最大級の鳥取砂丘。目に見えぬ風の姿がさざ波模様の風紋に映し出され、海岸を進むと風が起こす荒波に削り出された奇岩が連なる。鳥取砂丘の砂を生み出す中国山地へと急流を辿ると、風がもたらす豪雪に育まれた杉林を背に豪邸が佇む。さらに源流へと分け入ると岩窟の中に古堂が姿を現す。

これらは日本海の風が生んだ絶景と秘境である。

人々は、厳しい風の季節での無事とそれを乗り越えた感謝を胸に、古来より幸せを呼ぶ麒麟獅子を舞い続け、麒麟に出会う旅人にも幸せを分け与えている。



【鳥取砂丘の風紋と麒麟獅子】



【智頭の林業景観】

⑫ ◎浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町（島根県）

《神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で伝承される神楽～》

島根県西部、石見地域一円に根付く神楽は、地域の伝統芸能でありながらも、時代の変化を受容し発展を続けてきた。その厳かさと華やかさは、人の心を惹きつけて離さない。神へささげる神楽を大切にしながら、現在は地域のイベントなどでも年間を通じて盛んに舞われ、週末になればどこからか神楽囃子が聞こえてくる。老若男女、観る者を魅了する石見地域の神楽。それは古来より地域とともに歩み発展してきた、石見人が世界に誇る宝なのだ。



【神社での奉納神楽】



【石見神楽】

⑬ 岡山県（◎笠岡市）、香川県（まるがめし、とんしょうちょう、しょうどしまちよう）

《し けつてゐる!? ゆうきゅう ととき なが いし しま うみ こ にほん いしづえ まず びさんしょうとう
《知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島 ～海を越え、日本の 礎 を築いた せとうち備讃諸島～》

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。島々には、400年に渡って巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希有な産業文化が息づいている。世紀を越えて石を切り出した^{ちょうば}丁場は独特の壮観な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路の様な集落を遺した。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されている。



【小豆島農村歌舞伎及び舞台、石の栈敷席】



【池田の栈敷】



【大阪城石垣石丁場跡（天狗岩丁場）】

⑭ 徳島市、よしのがわし、あわし、みまし、いしいちよう、きたじまちよう、あいずみちよう、いたのちよう、かみいたちよう（徳島県）

《あい 藍のふるさと あわ にほんじゆう そ あ しこう あお たず
《藍のふるさと 阿波 ～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～》

古くから日本人の生活に深くかわり、神秘的なブルーといわれた「藍」。徳島県の北部を雄大に流れる吉野川の流域は、藍染料の日本一の産地です。この地域の平野部に見られる高い石垣と白壁の建物に囲まれた豪農屋敷や脇町の豪華な「うだつ」があがる町並み、「阿波おどり」のリズムからは藍染料の流通を担い、全国を雄飛した藍商人のかつての栄華をうかがい知ることができます。この地域では、今も藍染料が伝統的な技法で生み出されており、その色彩は人々を魅了し続けています。



【阿波藍製造（寝せ込み）】



【「城構え」といわれる藍屋敷（奥村家住宅）】

⑮ ◎鹿児島県（鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市）

《薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～》

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島。そこには、本城の鹿児島城跡や、県内各地の山城跡の周辺に配置された麓と呼ばれる外城の武家屋敷群が数多く残っています。

麓は、防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城の中のよう
に敵に備えた構造を持っていました。そこでは武士達が、心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。

鹿児島城跡や麓を歩けば、薩摩の武士達の往時の生き様が見えてきます。



【出水麓】



【旧税所家住宅】

⑯ ◎沖縄県（那覇市、浦添市）

《琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」》

沖縄はかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成してきました。琉球王国は「守礼の邦＝礼節を重んじる国」を掲げ、訪れる外国の賓客をもてなすために礼遇を行った。

特に、中国皇帝から派遣された冊封使節団は滞在期間が約半年間に及ぶほど大規模だった。宴は国を挙げての重要な行事で、冊封使をもてなす料理や芸能に力を注いだ。そこで供された宮廷料理や御用酒泡盛、宴を盛り上げた芸能は、今も沖縄の誇りとして県民に親しまれている。

琉球王国時代に育まれた食文化と芸能は、「世替わり」の歴史を映しながら、連綿と続く「守礼の心」で受け継がれている。



【首里城跡】



【琉球舞踊】